

## 助成事業実施報告書

団体名 特定非営利活動法人ひまわり(ひまわり一む)  
代表者・役職名 氏名 理事 林 あつ子

## ▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調をお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

## 1. 助成プロジェクト名

ひまわり一む

## 2. プロジェクトの内容(※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のものでも可) 300文字程度

子どもたちが、「ここ」は自分の居場所なんだ、と安心でき、ありのままの姿で過ごせる場所をつくりたい、を第一とし活動内容を計画しました。季節にちなんだ行事や、遠足、クッキングを取り入れた活動や、来所した日の学校の宿題等の学習支援を行いました。長期休暇には学生ボランティアを中心に無料塾(主に夏休みの宿題や制作、前学期の復習)を開催したり、近隣の公園にお出かけしたりと、長期休暇だからこそできる活動内容に取り組みました。また、イベント毎のお楽しみ会では、当初の予定より食事の提供の幅を広げることができ、たくさんの子どもたちに参加してもらうことが出来ました。集団で過ごすことや自分から様々なことに挑戦する機会を設けるため、12月に県外への遠足、3月に市内の島でのデイキャンプを実施しました。

## 3. プロジェクトの実施で得られた「結果」(OUTPUT。実施回数や参加者数など)、「成果」(OUTCOME。事業によって生まれた直接的な変化)、「社会的な変化」(IMPACT。事業が社会に与えた影響)などの『効果』 300文字程度

こどもの居場所づくりの中で、学習支援は勉強面への苦手意識や不安を少しでも解消することを目的としていました。学習の場を通して基礎学力の向上や、自分を信頼することを感じてもらい、勉強以外の活動にも積極的に取り組めるようになってきたように感じます。同時に、子どもたちに必要なことは勉強を教えることだけではないのだと、改めて知りました。日々の出来事、楽しかったこと、嫌だったことなど、自分の思いや感じたことを伝えてくれ、小さな変化を感じられることもありましたが、なによりひまわり一むで安心してその子らしく過ごせるようになってきたのだなと思いました。そして、近隣の小学校、ご家族様からも、活動についての問い合わせが増え、ひまわり一むの取り組みが地域の中で少しずつ認知されてきました。子どもたちが利用していない時間は、課題を抱える家庭への支援として、市の子育て支援課、スクールソーシャルワーカーとの情報共有の場としても活用しています。また、ボランティアとしてデイキャンプ等に参加してくれた方々からは、「島でこういうイベントや活動ができるんだ」と、今後、自治体中心の地域の活性化(イベント等)につながるようなお話も聞くことができました。こども主体の活動ですが、その活動に関心をもってもらえることで、年齢に関わらず様々な地域の方と交流することができたと感じています。

## 4. プロジェクト実施にあたっての課題、今後の展望など 300文字程度

活動を通して「ネグレクト的な養育環境」が浮き彫りになってきました。子ども食堂は貧困対策だけが目的ではありませんが、朝食(夕食)の欠食、十分な食事環境にない、など個々に抱える問題の背景には生活困窮家庭だけではなく、ネグレクトが存在するケースも多々ありました。自分の置かれている環境が当たり前なのかもしれない、SOSを出せないかもしれない、どうしたら良いのかわからず困っているかもしれない、そんな子どもたちが声を上げられる場所が必要なのではないでしょうか。また同時に、グレーゾーンの子どもたちの行き場についての相談が増え、ひまわり一むの利用を提案することもありました。子どもと保護者が抱える不安を耳にするたびに、正しい理解の重要性を痛感し、それが子どもたちが安心安全に過ごせる場所づくりの第一歩になるのだと思っています。安心して過ごしていくためには、人との関わりは不可欠です。今後も活動を継続し、関わった人同士が互いに支え合える場所を目標としていきます。

## 5. 参考資料

プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等のデータ。活動の様子がわかる写真などを必ず別途ご提供ください

